様式1

点検評価表（外郭団体）

Ⅰ　団体の概要

（平成30年4月1日現在）

団　体　名	公益財団法人静岡県舞台芸術センター		
所　在　地	静岡市駿河区平沢100番1	設立年月日	平成7年7月21日
代　表　者	理事長　鈴木　壽美子	県 所 管 課	文化・観光部文化政策課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律		
団体の沿革	平成7年7月21日 財団法人静岡県舞台芸術センター設立 平成25年4月　公益財団法人に移行		
運営する施設	静岡芸術劇場（専用使用）、静岡県舞台芸術公園（指定管理）		
団体ホームページ	http://www.spac.or.jp/		

出資者	出資額（千円）	比率（%）
静岡県	1,389,483	100.0
基本財産（資本金）計	1,389,483	100.0

役職員の状況（人）			
常勤役員	2	常勤職員	5
うち県OB	1	うち県OB	0
うち県派遣	0	うち県派遣	4
非常勤役員	20	非常勤職員	0
役員 計	22	職員 計	5

Ⅱ　点検評価（団体の必要性）

1　団体の設立目的（定款）

演劇、舞踊等の舞台芸術に関し、その創造活動等を行うことにより、静岡県の芸術文化の振興を図り、もって香り高い文化の創出に寄与する。

2　団体が果すべき使命・役割

演劇、舞踊等の舞台芸術に関し、その創造活動等により、静岡県の芸術文化の振興を図り、香り高い文化の創出に寄与する。

3　団体を取り巻く環境

区　分	内　　容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	・劇場法の制定により文化施設が文化芸術の継承、創造、発信の場に位置付けられた。年齢や障害の有無又は経済的な状況に関わらず、等しく文化芸術の鑑賞等ができる環境整備が求められている。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピック「文化プログラム」に取り組むこととなった。 ・平成29年度のアヴィニョン演劇祭公演などにより、団体の国内外での評価がさらに高まった。
行政施策と団体活動との関係（役割分担）	・静岡県舞台芸術振興構想（平成6年3月）の基本理念を実現し、施設、人材、活動が一体として機能する静岡県の独自性を備えた舞台芸術の振興を図るため設置された、舞台芸術活動を一貫して推進する舞台芸術の専門家による組織である。 ・人材育成・地域の舞台芸術活動支援など、極めて公益性の高い事業を実施する団体であり、県の文化振興施策を遂行する代替機関の性格を持っている。
民間企業や他の団体との関係（役割分担）	・専用劇場施設を有する公立の劇団であることを活かし、人材育成事業や活動支援事業など公益性の高い事業を実施している。 ・民間の劇団では代替が難しい方法で舞台芸術の振興に寄与していることから、役割分担は充分に図られている。

4 事業概要

（単位：千円 ）

区分	事業名	事業概要	H29 決算	H30 予算
県補助	創造と公演事業	国内外において静岡県の特性を生かした世界に通用する舞台芸術作品等の創造と公演を行うとともに、国内外からの招聘作品の公演を実施する。	298,498	363,246
県補助	人材育成事業	県内中高生を無料招待する「中高生舞台芸術鑑賞事業」、シアタースクール、スパカンファンプロジェクトなどを実施する。	45,038	53,083
県補助	活動支援事業	SPAC県民月間の開催や人材派遣・技術支援を行う。	2,413	7,285
県補助	ふじのくに⇄せかい演劇祭開催事業	世界の優れた作品を招聘し、静岡芸術劇場、静岡県舞台芸術公園を会場として、静岡から世界に向けて情報発信する国際的な舞台芸術の祭典を開催する。	38,780	54,500
県委託	舞台芸術公園管理事業	創造と公演の活動拠点である舞台芸術公園を指定管理者として適切に管理するとともに、全ての人が利用しやすい施設となるため、効率的で円滑な運営を行う。	52,720	54,500
県補助	管理・運営事業	団体の運営に必要な管理・運営事業を実施する。	71,394	70,260
合　　計			508,843	602,874

5 事業成果指標

指標の名称（単位）	目標（上段）及び実績（下段）				目標値（年度）
	H27	H28	H29	評価	
鑑賞者数（人）	（44,340）	（45,655）	（46,970）	A	49,600
	47,338	35,316	47,351		（H31）
鑑賞者率（%）	84	84	84	B	84
	87	75	81		（H31）
中高生舞台芸術鑑賞事業鑑賞者数（人）	（20,200）	（20,400）	（20,600）	C	21,000
	21,280	14,060	13,320		（H31）

※評価 … A：目標達成　B：目標未達成　C：目標未達成（乖離大）

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	・これまでの活動の成果を広く県民に還元するため、世界レベルの舞台芸術作品の公演を行う一方、舞台芸術の裾野の拡大につなげるため、人材育成事業や教育・普及事業といった公益性の高い事業に重点的に取り組んでいる。 ・海外の演劇祭等への招聘公演では、現地のマスメディアによる評価も高く、世界の演劇界におけるSPAC及びその活動拠点である「静岡」の知名度を高めることができた。 ・中高生舞台芸術鑑賞事業は市町教育委員会等、学校への訪問によりPRに努めている。平成29年度は76日程、23,940人が鑑賞できるよう県内中学校・高校等に案内し、平成28年度の実績を上回る14,600人の鑑賞者を予定していたが、欠席や学級閉鎖等のため観客数が落ち込んだ。	○	・SPACは、「ふじのくに⇄せかい演劇祭」や海外公演などにより静岡から世界に向けて舞台芸術を発信する一方、中高生を対象とした招待公演や「リーディング・カフェ」の開催などの教育・普及事業や人材育成事業を行うことにより、舞台芸術に関心を持つ県民の裾野の拡大や人材育成に努めており、県の文化振興に大きく寄与している。 ・また、平成29年度には世界最高峰の演劇祭「アヴィニョン演劇祭」において、アジアの劇団で初めてオープニングを飾る等、世界に向けて「演劇の都」静岡の魅力を発信している。 ・中高生舞台芸術鑑賞事業の鑑賞者数は、目標達成のためには一層の広報活動と、財源確保策について検討が必要であるものの、子どもたちにトップレベルの舞台芸術に触れる機会を提供することで、豊かな感性を育むことに大きく貢献している。

※判定欄 … ○：.

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	・SPACは、静岡県文化振興基本条例第11条（文化を創造する活動への支援等）の「世界を視野に入れて文化を創造する活動」に位置付けられ、県から支援を受けている。 ・県のふじのくに文化振興基本計画第４期計画の重要施策として「子どもが文化と出会う機会の充実」「創造活動の実現と環境づくり」など、SPACの事業が位置付けられている。 ・演劇界における国内外からのSPACの評価は極めて高く、今後、さらなる国内外での活躍を通じて、静岡をPRすることができる。 ・中高生舞台芸術鑑賞事業は、鑑賞した中高生・教員からの評価が高く、県内の人材育成を担う観点から、団体の果たす役割は極めて重要である。	○	・設立から現在まで、質の高い作品の創造と公演を行い、県民に対して優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を提供しており、東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムにおいても、国内外に向けた静岡の魅力発信という点で中心的な役割を果たすことが求められている。 ・また、中高生舞台芸術鑑賞事業等の人材育成事業は、参加した学校から生徒の感性を高める非常に良い機会だと高く評価されており、「地域自立のための人づくり・学校づくり実践委員会」においても一層の事業拡大を求められる等、教育分野における期待も高まっている。 ・これらの状況を踏まえ、SPACは、第4期ふじのくに文化振興基本計画の基本目標である地域社会の形成に向けて、重要な役割を担うものと考えている。

※判定欄 … ○：良好　△：改善を要する　×：抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況（過去の行財政改革推進委員会からの意見への対応状況）

行財政改革推進委員会意見（経営健全性に係るもの以外）	対応状況			
	団体記載		県所管課記載	
SPACが果たす役割の明確化	○	舞台芸術の創作・公演活動を行い、県民に質の高い作品の鑑賞機会を提供するとともに、人材育成事業や県民の舞台芸術活動支援事業を実施する。	○	世界に通用する質の高い作品の鑑賞機会を県民に提供するとともに、舞台芸術の創造を通じて、音楽、文学、美術などの様々な芸術文化活動に刺激を与え、本県の芸術文化の発展を牽引している。
グランシップや舞台芸術公園を活かすための方策を検討	○	静岡芸術劇場では、中高生舞台芸術鑑賞事業やSPACシアタースクールの実施等、県民が演劇に触れ楽しむ機会を創出する事業を行っている。また、舞台芸術公園では、SPAC県民月間により県民が行う舞台芸術活動を支援しているほか、国際的な演劇人材育成ワークショップの場とするなど、施設の活用に努めている。	○	静岡芸術劇場、舞台芸術公園ともに、舞台芸術の創造と公演、人材育成、活動支援の事業に活用されている。 舞台芸術公園の指定管理者評価委員会において、SNS等を活用した積極的な情報発信について頂いた意見をもとに、インスタグラムのアカウントを作成する等、一般来園者の増加にも努めている。

※○：対応済　△：対応中　×：未対応

Ⅲ　点検評価（経営の健全性）

1　財務状況

（単位：千円）

区分		H27 決算	H28 決算	H29 決算	評価	備考（特別な要因等）
健全性指標	単年度収支 (d-h)	-37,245	-28,884	-33,698	B	・特定費用準備資金の活用 ・県補助金の減
	経常損益 (a+b-e-f)	-37,245	-28,885	-33,698	B	
	公益目的事業会計	-43,658	-29,923	-27,323	―	特定費用準備資金の活用
	収益事業等会計	1,192	21	123	―	
	法人会計	5,221	1,017	-6,498	―	県補助金の減
	剰余金	158,320	129,435	95,788	A	

※評価　…　A：プラス　B：特別な要因によるマイナス　C：マイナス

区分			H27 決算	H28 決算	H29 決算	主な増減理由等	H30 予算
資産の状況	資産		1,785,349	1,621,733	1,565,404		1,563,796
		流動資産	208,078	122,074	121,921		121,921
		固定資産	1,577,271	1,499,659	1,443,483		1,441,875
	負債		181,896	91,615	80,133		108,555
		流動負債	180,336	89,795	75,795	短期借入金の減等	104,311
		固定負債	1,560	1,820	4,338	車両購入	4,244
	正味財産/純資産		1,603,453	1,530,118	1,485,271		1,455,241
		基本財産/資本金	1,445,133	1,400,683	1,389,483	基本財産評価損	1,389,483
		剰余金等	158,320	129,435	95,788		65,758
		運用財産	0	0	0		0
収支の状況	収入	事業収益 (a)	567,832	483,102	459,877		579,850
		うち県支出額	366,185	303,485	267,737	県補助金の減	299,500
		(県支出額/事業収益)	(64.5%)	(62.8%)	(58.2%)		(51.7%)
		事業外収益 (b)	24,197	38,136	24,073		6,024
		うち基本財産運用益	23,773	37,388	23,444	H28高利回り債券の償還	5,821
		特別収益 (c)	0	0	0		0
		うち基本金取崩額	0	0	0		0
		収入計 (d=a+b+c)	592,029	521,238	483,950		585,874
	支出	事業費用 (e)	629,254	550,122	517,648	諸経費の削減	615,903
		うち人件費	35,131	35,859	37,028		35,791
		(人件費/事業費用)	(5.6%)	(6.5%)	(7.2%)		(5.8%)
		事業外費用 (f)	20	0	0		0
		特別損失 (g)	0	0	0		0
		支出計 (h=e+f+g)	629,274	550,122	517,648		615,903
	収支差 (d-h)		(37,245)	(28,884)	(33,698)		(30,029)

2 経営改善の取組の実施状況と評価

・中高生舞台芸術鑑賞事業については、更なる経費の節減が求められる中、平成29年度は演目数を絞り（28年度5本→4本）、出張公演を取り止めて静岡芸術劇場のみで実施したほか、再演演目選定数の増（2演目→3演目）、高等学校のバス代上限額の見直し（5万円→4万円）により、事業費の抑制を図った。
・平成29年度は、世界屈指の演劇祭といわれるフランスのアヴィニョン演劇祭から招聘を受け、アジアの劇団で初めてそのオープニングに選定され、『アンティゴネ～時を超える送り火～』を上演した。これにより、芸術総監督宮城聰の文化庁芸術選奨の受賞をはじめ、国内外の評価が高まり、平成30年度は、フランスで行われる日本博「ジャポニスム2018」の公式企画に日本を代表する舞台芸術として参加する。なお、SPACの「ジャポニスム2018」への参加に合わせて、静岡県が魅力発信事業を企画しており、これまでの「演劇の都静岡」にとどまらない静岡の魅力を広く世界にPRする機会としている。
・舞台芸術公園の活用の一環として、平成28年度から受け入れている国際的な人材育成ワークショップを継続実施することで、収入の確保につなげている。
・収入確保策として、平成29年度に営業専任スタッフを配置し、市町文化協会や商工会議所へ団体観劇の勧誘を行い、2団体の観劇につなげることができた。

3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

・県内中高生を対象とする無料公演である中高生舞台芸術鑑賞事業等、人材育成事業の継続により、平成29年度も赤字となった。これは、本県の文化を担う人材の育成という、事業収益が見込めない公益性の高い事業を推進した結果である。
・平成29年度は、県補助金の減額に対応するため、演劇祭及び中高生舞台芸術鑑賞事業の演目数の削減、中高生舞台芸術鑑賞事業における再演演目の実施（4演目中3演目）により、事業費を抑制した。

4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	・収益性のない中高生舞台芸術鑑賞事業については、限られた予算で執行するために、演目内容や経費の見直しを行い、事業費の抑制を図っている。 ・海外公演での国際的な評価の高まりを受け、国家的事業への参画による事業展開や、収益が望める海外公演につなげ、財団の経営基盤の維持・強化に努めている。 ・財団の使命・目的に適う事業の受託や、新規の営業先の開拓を行うなど、収益確保策に取り組んでいる。	△	・平成29年度は、公演演目数の減や再演演目の選定により、事業費の抑制を図るとともに、誘客のための営業活動を強化する等、収入確保に努めた。 ・一方、計画的に充当してきた特定費用準備資金が平成30年度充当分で終了するほか、収入全体に占める県支出金の割合は依然として高く、中長期的な事業展開を見据えた財源確保のため、検討を必要とする。

※判定欄 … ○:良好　△:改善を要する　×:抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況（過去の行財政改革推進委員会からの意見への対応状況）

行財政改革推進委員会意見（経営健全性に係るもの）	対応状況			
	団体記載		県所管課記載	
コスト意識を持った事業展開	△	賛助会員の獲得による収入確保、公演事業費の節約に努めている。	△	事業費の抑制を図るとともに、収入確保に努めており、継続的に取り組むことが期待される。

※○:対応済　△:対応中　×:未対応

Ⅳ　改善に向けた今後の方針

1　点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針（団体記載）	団体の方針に対する意見等（県所管課記載）
・県民に世界に通用する本物の舞台芸術を提供するため、創造と公演活動を継続していく。 ・中高生舞台芸術鑑賞事業については、ふじのくに文化振興基本計画のもと、鑑賞者数年21,000人を目標にしている。同事業は平成25年度から特定費用準備資金を主な財源として実施してきている。しかし、平成30年度でその財源がほとんどなくなることから、平成31年度以降の財源獲得に向けて県と協議していくこととする。 ・海外公演については、SPACが日本が世界に誇る、また世界からもレベルの高さが認められた劇団として評価されることにつながり、あわせて「演劇の都　静岡」を広く世界にPRできるものであることから、収益性を考慮の上、積極的に取り組む。 ・事業の充実や健全な経営運営を図るため、国庫補助や民間助成金の確保に努める。 ・県内における知名度の向上と、鑑賞者数の増加を図るため、各種団体等への営業活動を推進していく。	・世界レベルの舞台芸術作品の鑑賞機会を提供するとともに、中高生舞台芸術鑑賞事業や、小中学校・高校への俳優の派遣等を含めたアウトリーチ活動を積極的に実施することで、県民が舞台芸術に親しむ機会を提供している。 ・中高生舞台芸術鑑賞事業は収益が見込めない事業であるため、財源確保策について検討が必要であるものの、子どもが芸術に触れる機会として学校関係者からの評価も高く、県として支援を継続する。 ・県としては、SPACと連携していつでもどこでも多彩で魅力的な文化に出会うことができる「ふじのくに芸術回廊」の実現を目指すとともに、健全な経営運営に向けた取組を促していく。

2　今年度の改善の取組

団体の取組（団体記載）	団体の取組に対する意見等（県所管課記載）
・質の高い公演の実施とともに事業収入の確保を図るため、新たに静岡市と連携の強化を図る。 ・海外への招聘公演については、静岡のPRに資することはもとより、事業収入の確保に努め、団体全体の収支適正化につなげる。 ・「ふじのくに⇄せかい演劇祭2018」は、「ふじのくに野外芸術フェスタ2018」や静岡市事業との同時開催により、宣伝効果を高め、より多くの鑑賞者の確保に力を入れる。 ・「ふじのくに野外芸術フェスタ2018」においては、平成27年度にフランス・アヴィニョン演劇祭の招聘公演として上演した「マハーバーラタ～ナラ王の冒険」を駿府城公園で披露し、県内外に「演劇の都静岡」をPRする。 ・中高生舞台芸術鑑賞事業については、平成29年度の水準の演目数を維持し、コストを抑えていく。	・平成29年度に「アヴィニョン演劇祭」においてオープニングを飾ったこと等により、国内外におけるSPACの知名度は高まっている。 ・こうした状況を県内公演での鑑賞者数増加や、新規助成金の獲得、収益を見込んだ海外公演等により、事業収入増加につなげ、安定した財政基盤の確立ができるよう、経営体質の強化に向けた取組を県としても促していく。

Ⅴ　組織体制及び県の関与

1　役職員数及び県支出額等

（単位：人、千円）

区　分	H27	H28	H29	H30	備考（増減理由等）
常勤役員数	2	2	2	2	
うち県派遣	0	0	0	0	
うち県OB	1	1	1	1	
常勤職員数	5	5	5	5	
うち県派遣	4	4	4	4	
うち県OB	0	0	0	0	
県支出額	366,185	303,485	267,737	299,500	
補助金	250,000	250,000	215,000	245,000	
委託金	116,185	53,485	52,737	54,500	
その他	0	0	0	0	
県からの借入金	0	0	0	0	
県損失補償等	0	0	0	0	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額（当該年度は予算額）、借入金・損失補償等は期末残高

2　点検評価（団体記載）

項　目	評価	評　価　理　由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	常勤職員５人の内訳は、芸術局長１人、総務課長１人、総務・経理・管理の各係長であり、適正な人員体制としている。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	常勤役員２人のうち、県OBは１人である。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	○	県の舞台芸術振興施策の推進のため、県からの派遣職員４人を事務局に置いている。

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている　△：基準を満たしていないが合理的理由がある　×：基準を満たしていない

3　点検評価（県所管課記載）

項　目	評価	評　価　理　由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	本団体は、県の文化政策の主要な柱である舞台芸術の振興のために、舞台芸術の創造と公演、人材の育成、活動の支援などを一貫して推進する組織として設立され、団体が実施する事業は、県に代替して施策を推進するものであることから県職員を派遣しており、必要な関与と考えている。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	人材育成や地域の舞台芸術活動支援など、公共性の高い事業の実施、県の施策を遂行する代替的な性格があるという性質上、財団の自主財源だけでは自立は困難であるため、今後も県の助成が必要と考えている。 しかし、今後の経営を安定させるためにも経費節減や公演本数、内容等の見直しを図ることで効率のよい事業推進に努めるとともに、会員制度の普及、国等の助成金確保など自主財源の拡大により経営体質の強化を行うべきと考えている。

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている　△：基準を満たしていないが合理的理由がある　×：基準を満たしていない

Ⅵ　更なる効果的事業の実施に向けた取組

1　外部意見把握の手法及び意見

区　分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	○	舞台芸術公園の指定管理業務について、外部評価委員会による評価を受けている。	平成29年11月７日に開催された指定管理者評価委員会において、平成28年度の指定管理者実施業務について、５段階中4.5「大変良く実施した」と評価された。
利用者ｱﾝｹｰﾄ	○	○	上演後に鑑賞者アンケートを実施し、演目への感想、SPACへの意見・要望などを聞いている。	・出張公演をしてほしい。 ・劇場に来られない人のために、公演が映像化されるとうれしい。 【中高生舞台芸術鑑賞事業】 ・静岡にこんな素晴らしい劇団が存在していたなんて思いもしなかった。 ・今まで舞台を見たことがなく、こんなに楽しいものだとは知りませんでした。 ・演劇に興味をもつことができた。 ・生徒たちが初めて本物の演劇を体験させていただく素晴らしい事業である。（教員）
			舞台芸術公園の利用者にアンケートを実施し、施設の管理、改善に役立てている。	・多くの人に施設を知ってもらい、利用してほしい。 ・お茶や樹木の整備が素晴らしい。 ・落ち着いて過ごせる。
利用者等 意見交換会	―	―	・上演後に出演俳優と観客が直接交流し、上演直後の観客の生の声を聞くことのできる場を設けている。 ・中高生舞台芸術鑑賞事業では、終演後に、俳優からのメッセージや見送り、対話を行っている。	・俳優と交流できる機会があるとよい。 【中高生舞台芸術鑑賞事業】 ・演劇の内容はもちろんだが、最後にスタッフと俳優の話に感動した。 ・劇を見る人でなく、見られる人になってみたいと思った。もう一度劇団の方々に会いたい。

○：実施している／公表している　―：実施していない／公表していない

2　事業やサービスの見直し例

・中高生舞台芸術鑑賞事業のバス代助成の経費の抑制を図った。
・地元団体、個人の協力により、劇場に足を運ぶ機会の少ない方々（ひとり親世帯等）を招待する「あしながおじさんプロジェクト」を実施した。
・県立高校校長会において中高生舞台芸術鑑賞事業と同演目を上演し、中高生舞台芸術鑑賞事業をPRし人材育成における裾野の拡大に努めた。
・「ふじのくに⇄せかい演劇祭2017」において、世界各国から劇団を招聘し、国際色豊かでありながらコンパクトな開催を実現した。また、関連企画として、開演前に著名人を集めた「広場トーク」を実施し、誘客を図った。
・SPACのPRのため、県内の催し等で朗読劇や小演劇などのアウトリーチ事業を積極的に行った。
・オンライン舞台映像配信サービスや「BSスカパー！」を活用し、過去の公演を放送している。